

2020年度（2021年3月期） 決算説明資料

2021年5月14日

H.U.グループホールディングス株式会社

※ 本資料では、記載している部分及びEBITDAの数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。

※ 「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」と省略する場合があります。

※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。

※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。

CLT : 受託臨床検査事業

IVD : 臨床検査薬事業

SR : 滅菌関連事業

ENB : 新規育成事業及びその他

HUHD : H.U.グループホールディングス

※ 2019年度第1四半期より報告セグメントを変更しております。本資料は過去実績も遡及し、変更後の報告セグメントの報告区分に基づき作成しております。

※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2019年度 : 1USD = 108.74 JPY 1EURO = 120.82 JPY

2020年度 : 1USD = 106.06 JPY 1EURO = 123.69 JPY

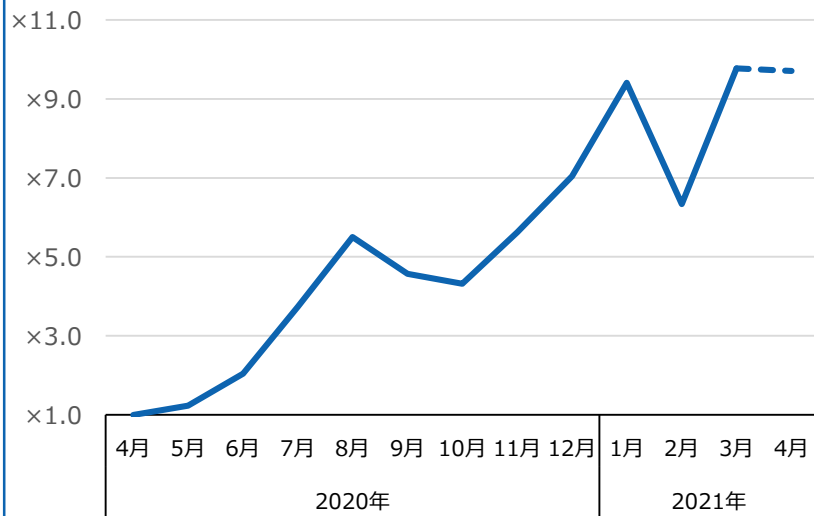
2021年度計画 : 1USD = 104.00 JPY 1EURO = 124.00 JPY

新型コロナウイルス関連のアップデート

CLT：PCRおよび特殊検査受託状況のトレンド

PCR検査受託状況（新型コロナウイルス関連）

2020年4月の受託総数を1とした場合の増加率^{※1}

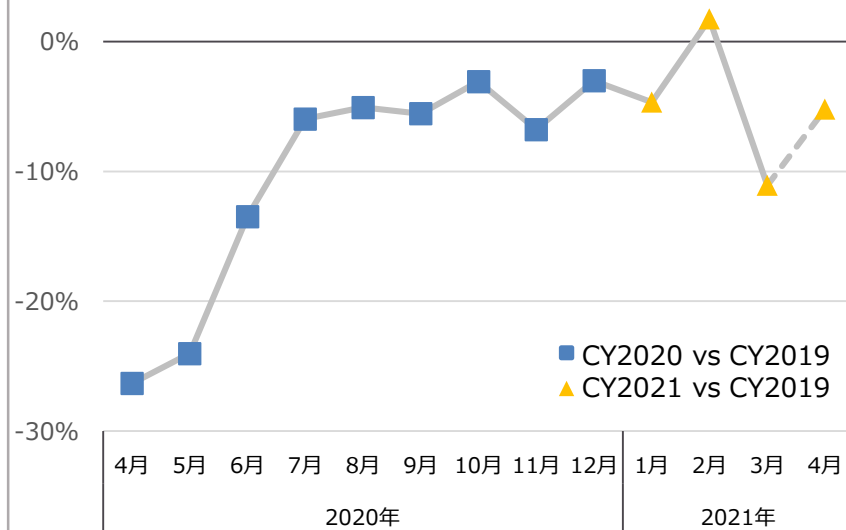


- 感染者の数と連動して検査受託数は増減

※1 SRL、日本臨床の全国での受託

特殊検査の受託状況（新型コロナウイルス関連検査を除く）

特殊検査ID数^{※2}のCY2019年同月比



- 新型コロナウイルス影響が顕在化する前のレベルを下回る水準で推移

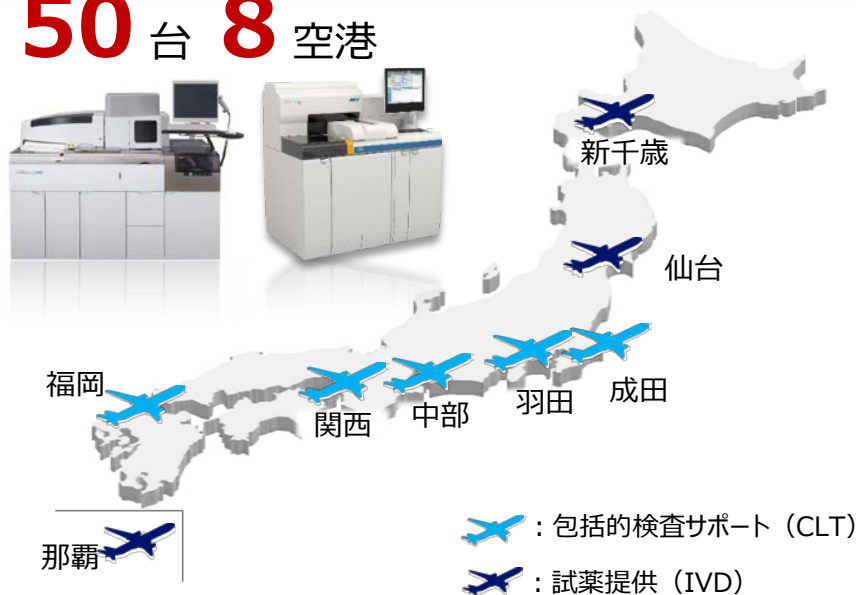
※2 八王子ラボ受付分、稼働日調整後

CLT/IVD：空港検疫所での貢献

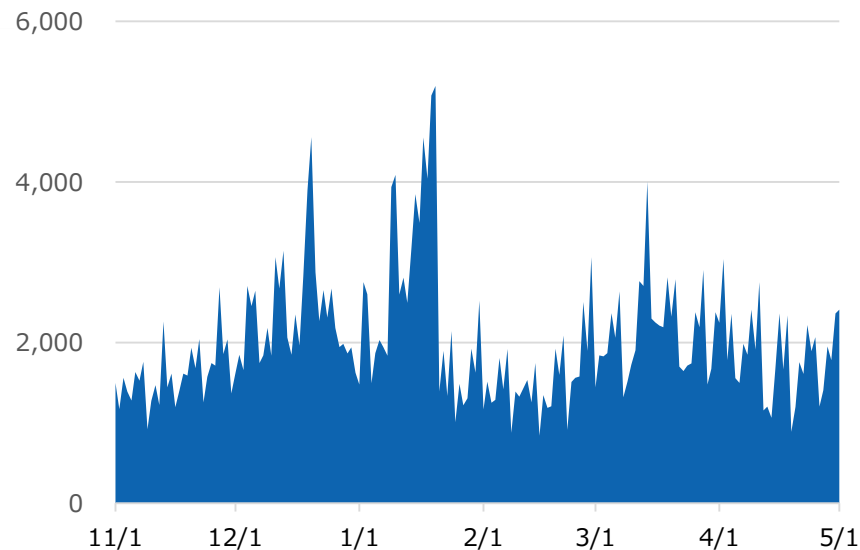
- 合計8か所の空港検疫所へ高感度抗原定量検査を提供
- 包括的検査サポート提供は5か所（成田・羽田・関西・中部・福岡）

空港検疫所

50 台 **8** 空港

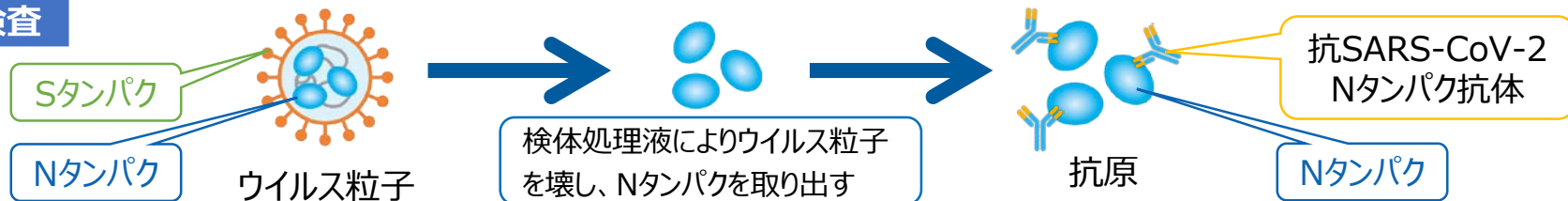


空港検疫所での抗原検査実施数



抗原検査の変異株測定に対する有用性の理由

抗原検査



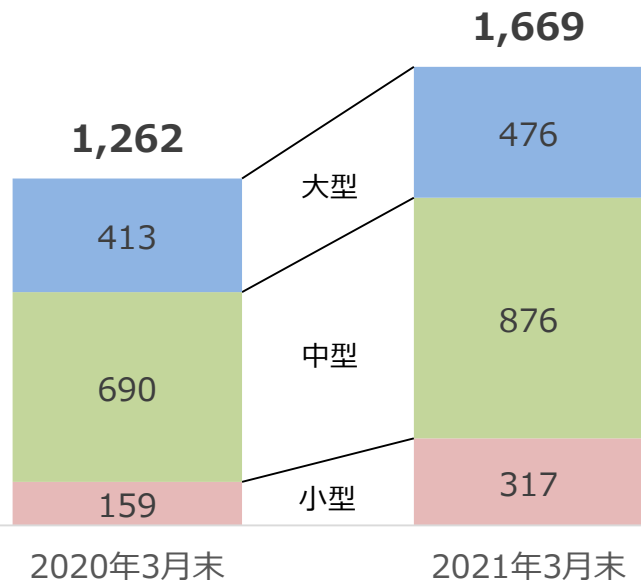
- 新型コロナウイルスは、複数のタンパク質を有する
RNAに絡みついている**ヌクレオカプシド(N)タンパク**、表面に存在し感染関与する**スパイク(S)タンパク**など
- ルミパルスは、新型コロナウイルスの粒子を壊して抽出された**Nタンパク**を測定する
- イギリス型・南アフリカ型・ブラジル型・インド型等の変異株は、それぞれの**Sタンパクに特徴的な複数の変異**を認める
- ルミパルスが測定対象としているNタンパクにも変異があるが、ルミパルス試薬で検出に用いている抗体が結合する部位とは異なるため、測定原理的に変異株の**Nタンパクを測定できなくなる可能性は低い**
- また結合部位の異なる複数の抗体を用いているため、変異による影響は受けにくい試薬設計である

IVD：高感度抗原定量検査

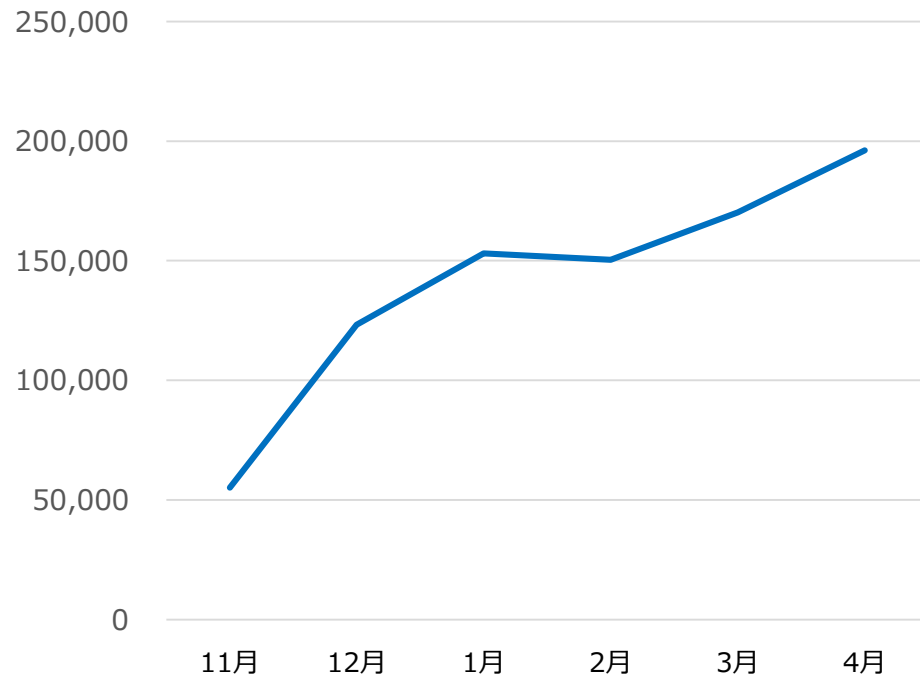
ルミパルス設置台数^{※1}

国内市場設置済み台数：1,669台

- 純増407台
- 新型コロナウイルスによる新規設置：約350台
(2021.1－3月：約100台)



医療機関における月次での高感度抗原定量検査実施数^{※2}



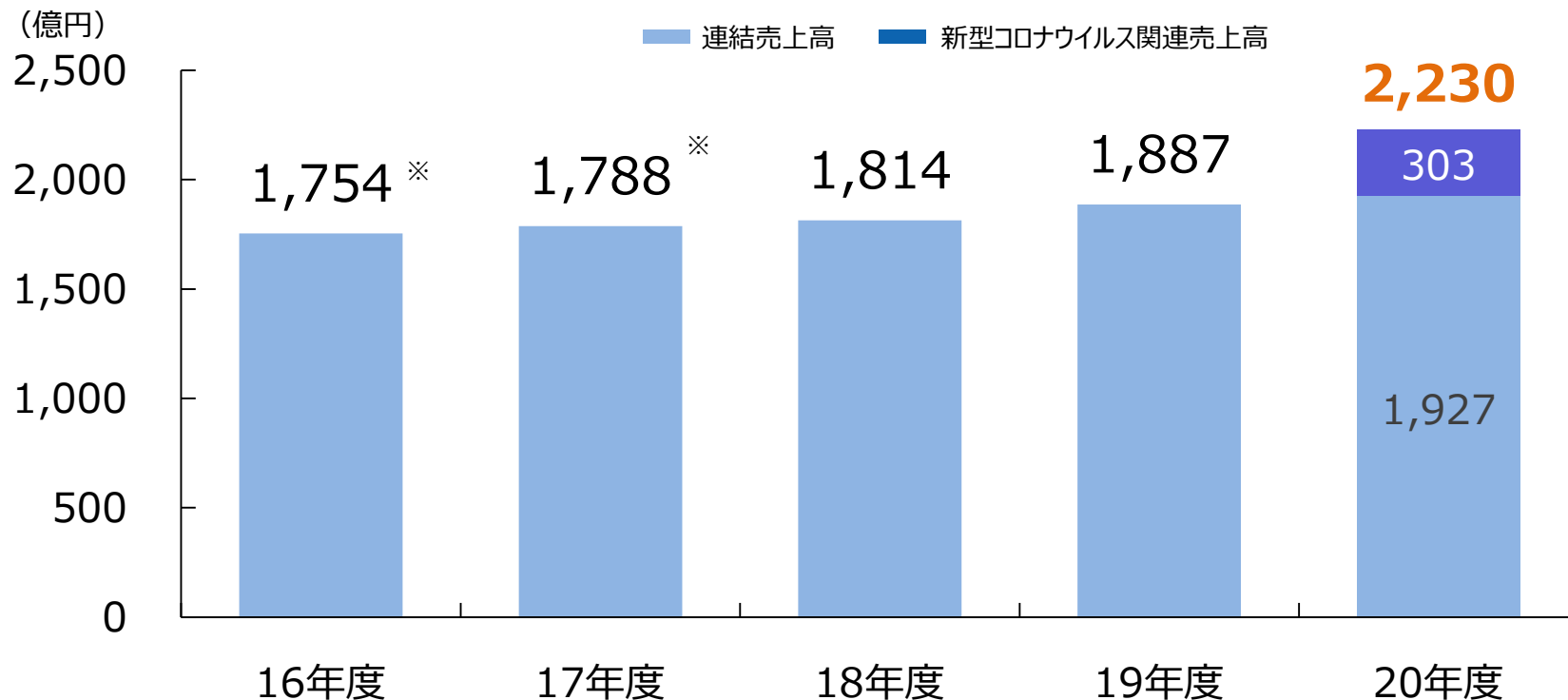
※1 大型機：L2400、Presto 中型機：G1200 小型機：G600 II

※2 厚労省 国内における新型コロナウイルスに係る抗原検査（検体採取）の実施状況（検体採取日ベース）

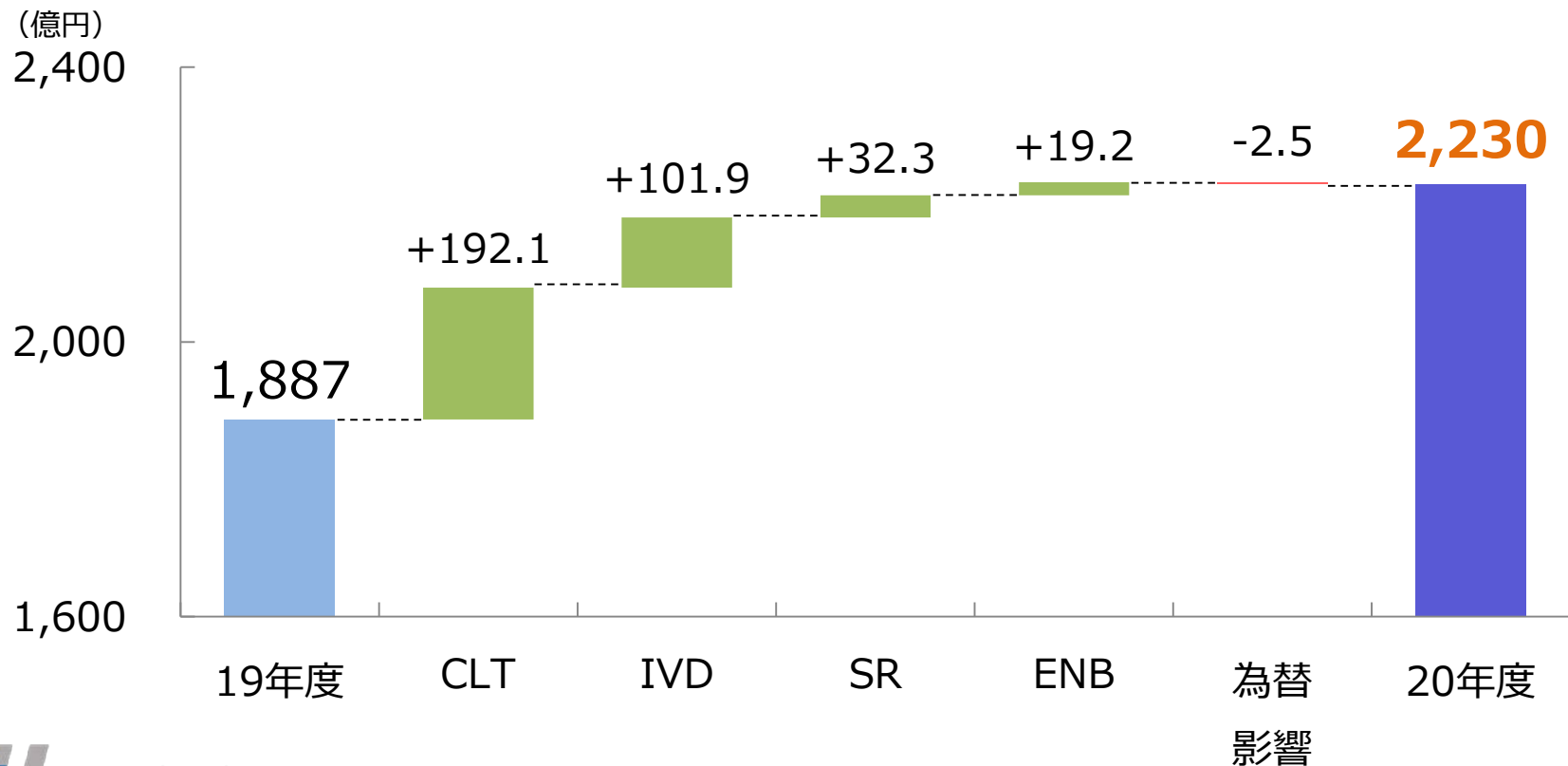
2020年度（2021年3月期）業績概況

連結売上高 推移

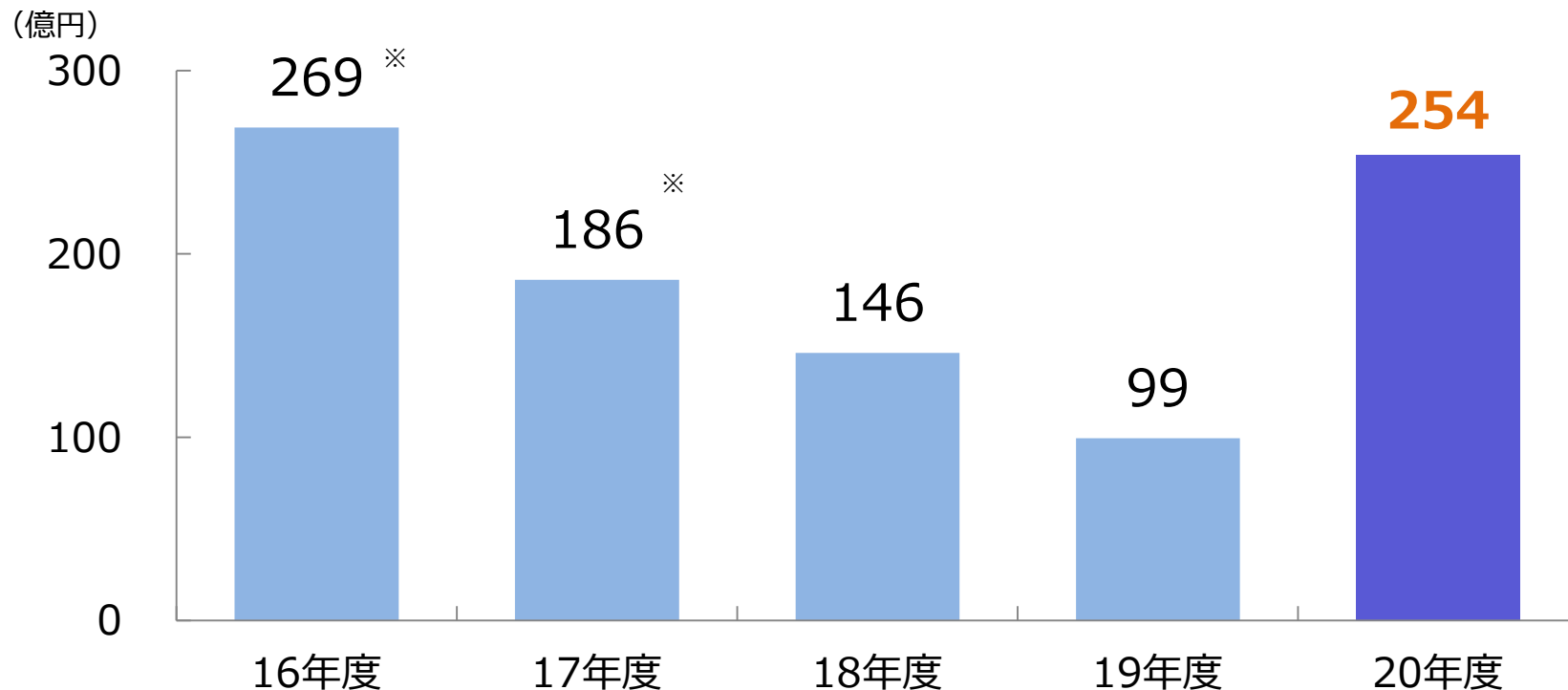
過去最高の連結売上高



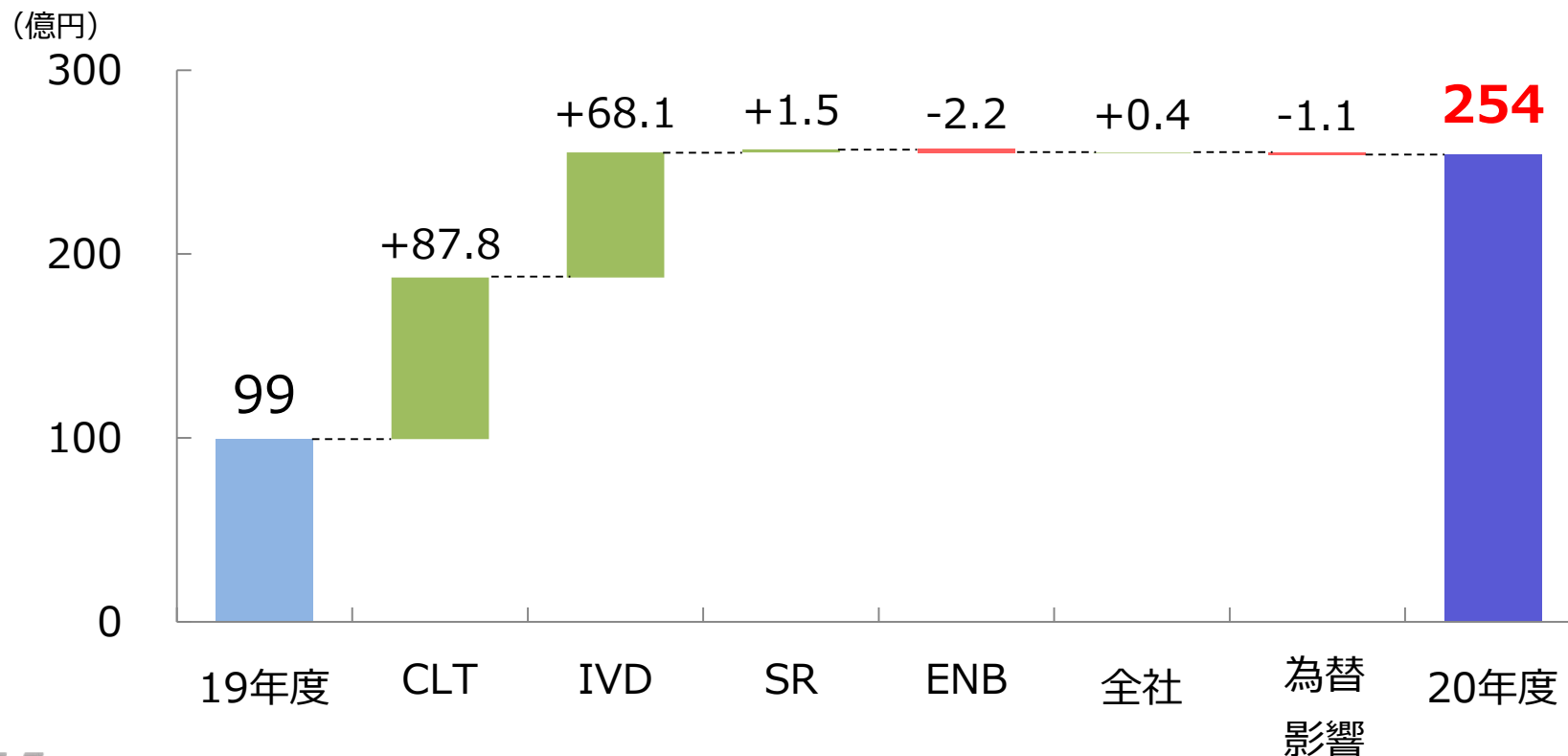
連結売上高 対前年同期比較



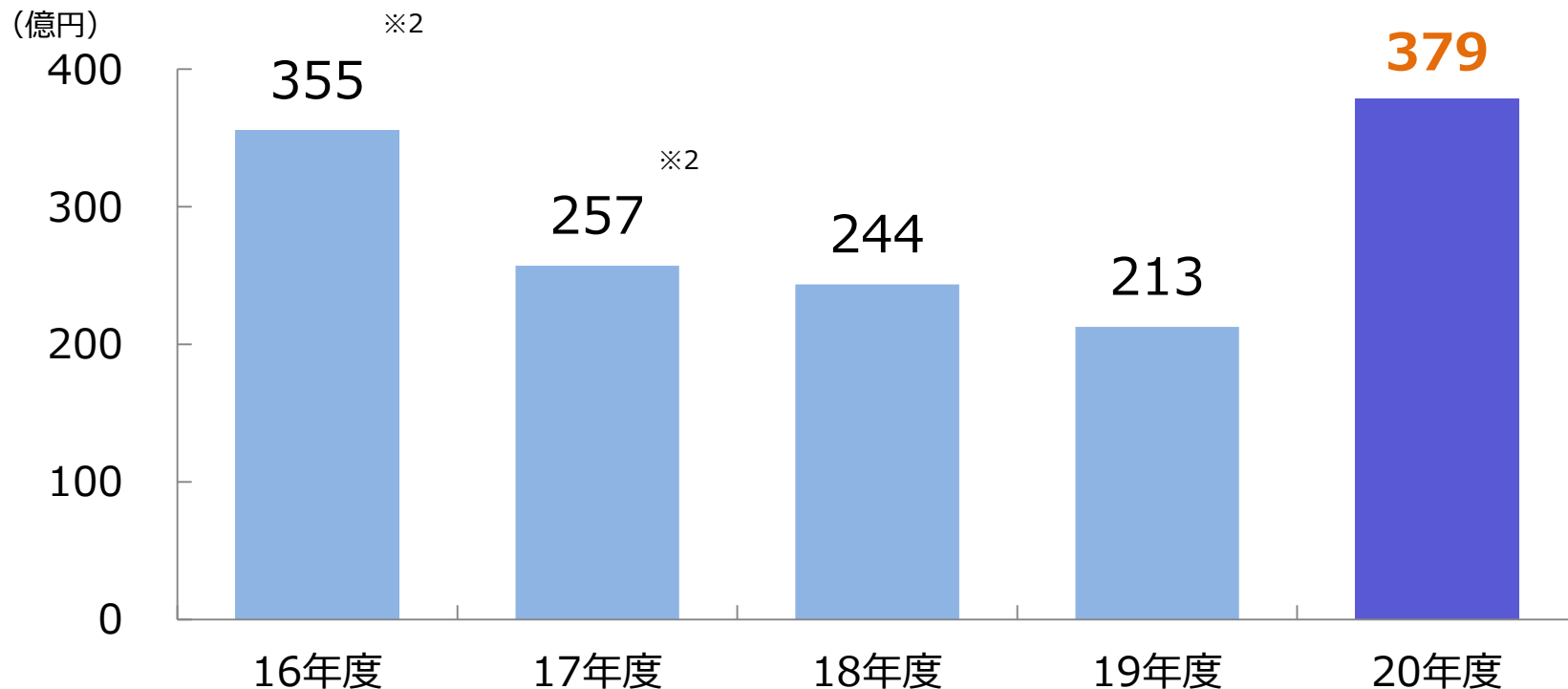
連結営業利益 推移



連結營業利益 対前年同期比較

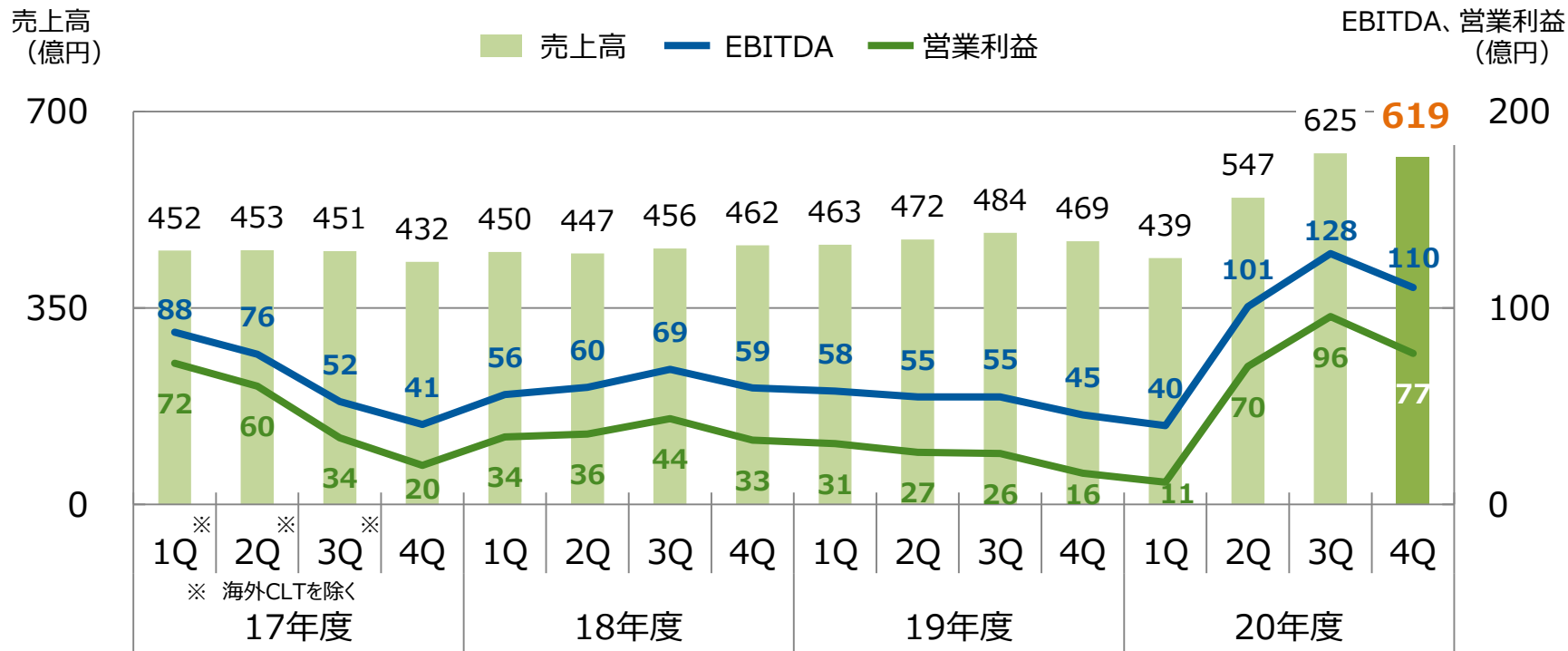


連結EBITDA^{※1}推移



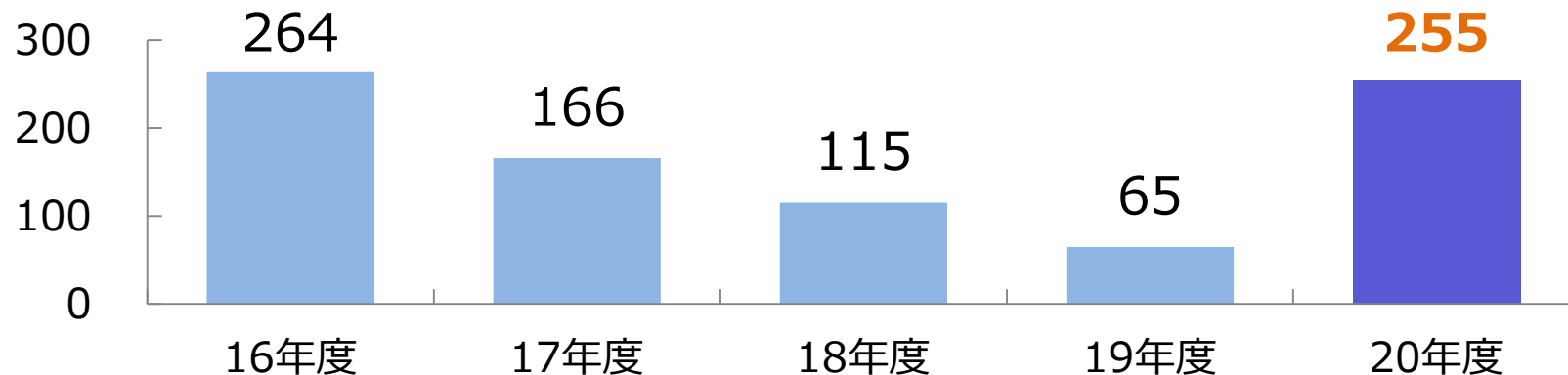
四半期毎の業績推移

第4四半期に一過性の費用を計上（約9億円）



連結経常利益 推移

(億円)



主な要因

【2019年度】

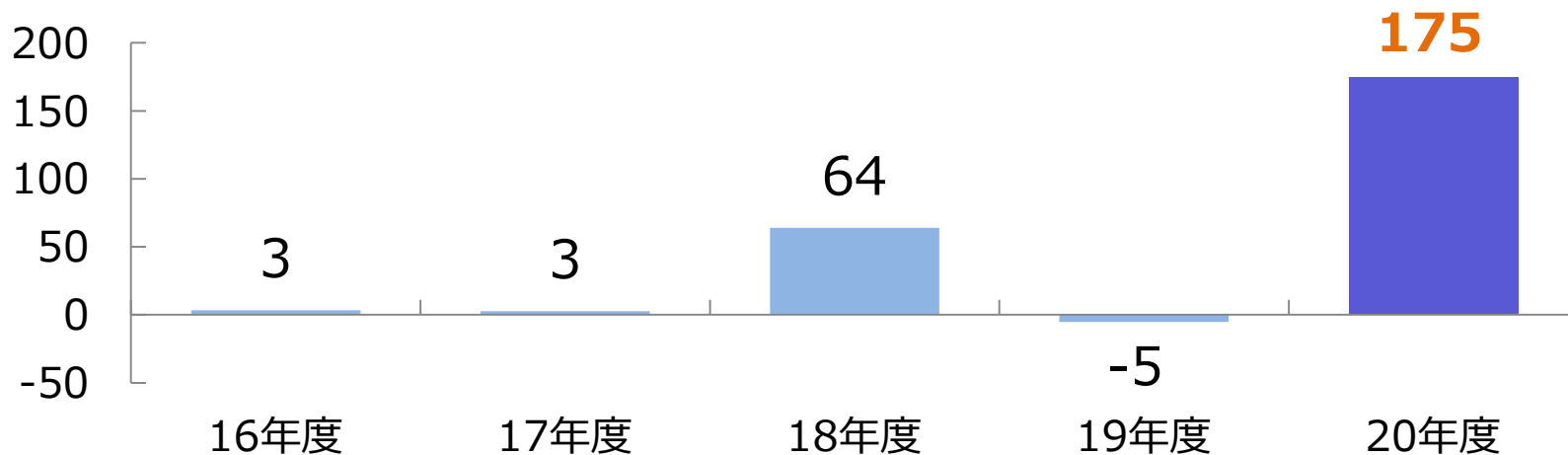
- 持分法による投資損失
 - ✓ BMGL ▲35億円
 - ✓ 平安保険グループとのJV ▲28億円
- ▲7億円

【2020年度】

- 持分法による投資損失
 - ✓ BMGL ▲17億円
 - ✓ 平安保険グループとのJV ▲7億円
- ▲10億円
- ベンチャー投資ファンド運用益 +13億円

連結当期純損益 推移

(億円) 過去最高の連結当期純利益



主要要因

【2019年度】

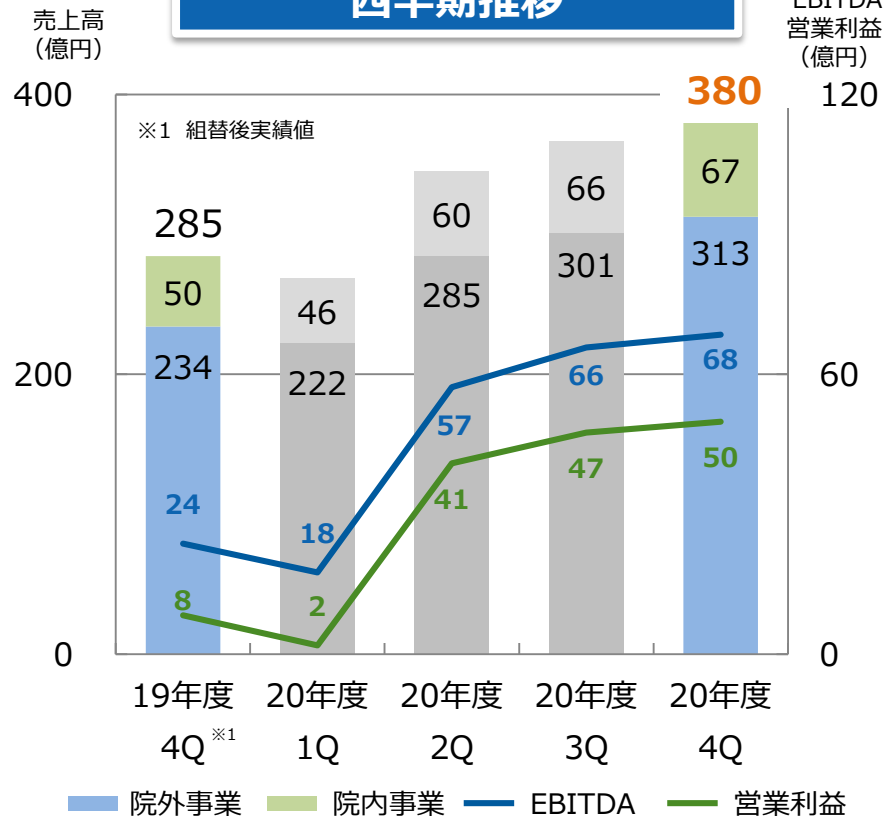
- 法人税等調整額（繰延税金資産の取崩） ▲58億円

【2020年度】

- 固定資産売却損 ▲15億円
（SRL八王子ラボと富士レビオ八王子事業所 他）
- 事業構造改善費用 ▲15億円

CLT事業

四半期推移



対前期比

(億円)

	19年度	20年度	対前期比 増減	
売上高	1,169	1,361	+192.1	+16.4%
院内	205	240	+34.8	+17.0%
院外	964	1,121	+157.4	+16.3%
EBITDA	111	209	+97.6	+87.5%
営業利益	52	140	+87.8	+168.2%

売上高

- テスト数：+3.3%
- 新型コロナウイルスPCR検査の増加
- 遺伝子関連検査の増加
- 空港検疫所における包括的検査サポート

営業利益

- 新型コロナウイルスPCR検査および空港検疫所における包括的検査サポートによる増収に伴う増益
- 減価償却費の増加 (▲12億円)

※1 今年度よりSPSサービス事業をSR事業へ承継したことに伴い過去実績は遡及して組替後実績値を掲載（2019年12月19日付リリース参照）
 ※2 SPS（サニタリー・パッケージ・システム）サービス：白衣等ユニフォームのリース、メンテナンス、利用者個人別の管理を医療機関に提供するサービス

IVD事業

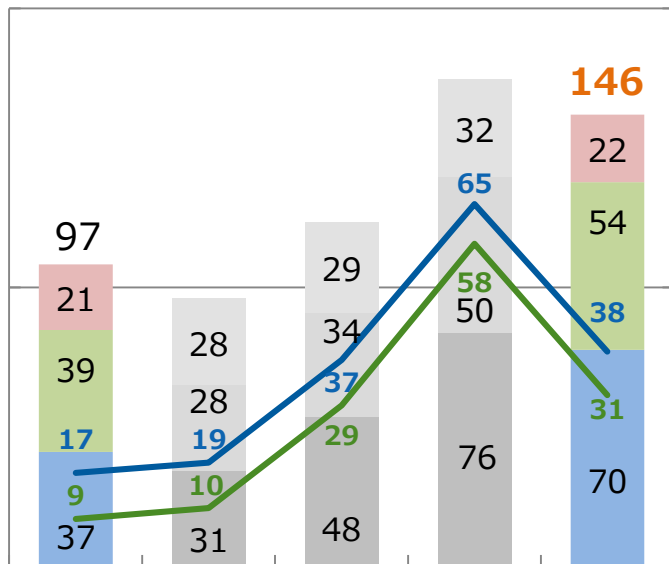
四半期推移

売上高
(億円)

180

90

0



19年度 20年度 20年度 20年度 20年度

4Q 1Q 2Q 3Q 4Q

ルミパルス事業 OEM・原材料事業
その他製品 EBITDA 営業利益

EBITDA
営業利益
(億円)

100

50

0

対前期比

(億円)

	19年度	20年度	対前期比 増減	
売上高	401	500	+99.4	+24.8%
ルミパルス	158	224	+66.5	+42.1%
国内	136	188	+52.4	+38.6%
海外	22	36	+14.1	+63.7%
OEM・原材料	158	166	+7.2	+4.6%
その他	85	110	+25.7	+30.4%
EBITDA	93	159	+65.8	+70.5%
営業利益	61	128	+66.9	+109.9%
ルミパルス 内販売上高	21	41 ※	+20.6	+100.1%

※ 新型コロナウイルス関連検査試薬を中心とした売上高の増加

売上高

- 新型コロナウイルス関連による増収
(ルミパルスSARS-CoV-2 Ag、エスプラインSARS-CoV-2、OEM・原材料)

営業利益

- 増収および内販拡大による増益
- 4Qに一過性の評価減および廃棄が発生 (▲6億円)

SR事業

四半期推移

売上高
(億円)

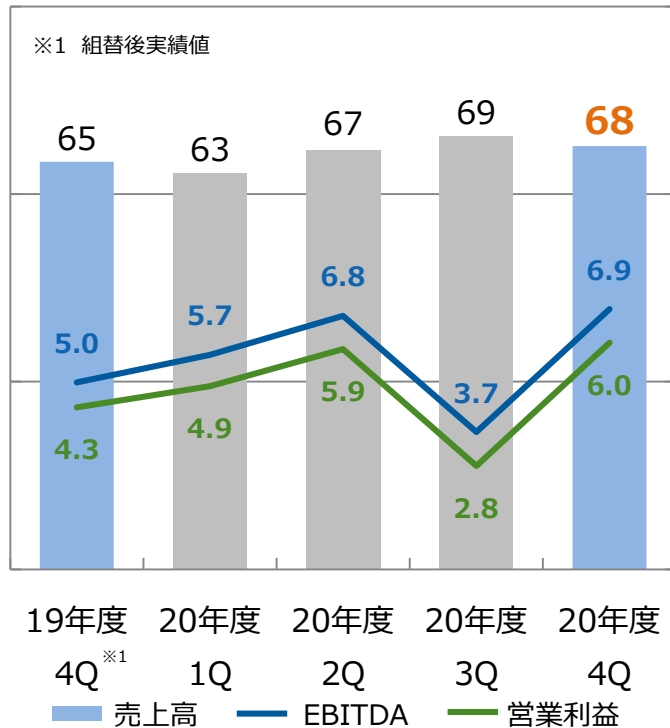
90

60

30

0

※1 組替後実績値



EBITDA
営業利益
(億円)

15

10

5

0

対前期比

(億円)

	19年度	20年度	対前期比 増減	
売上高	235	267	+32.3	+13.7%
EBITDA	21.0	23.1	+2.1	+10.0%
営業利益	18.0	19.5	+1.5	+8.6%

売上高

- 19年度3Qから開始した大口顧客への医材預託品販売が寄与

営業利益

- 院内滅菌における業務量の減少による労務費の低減
- 3Qに一過性費用の計上 (▲3億円)

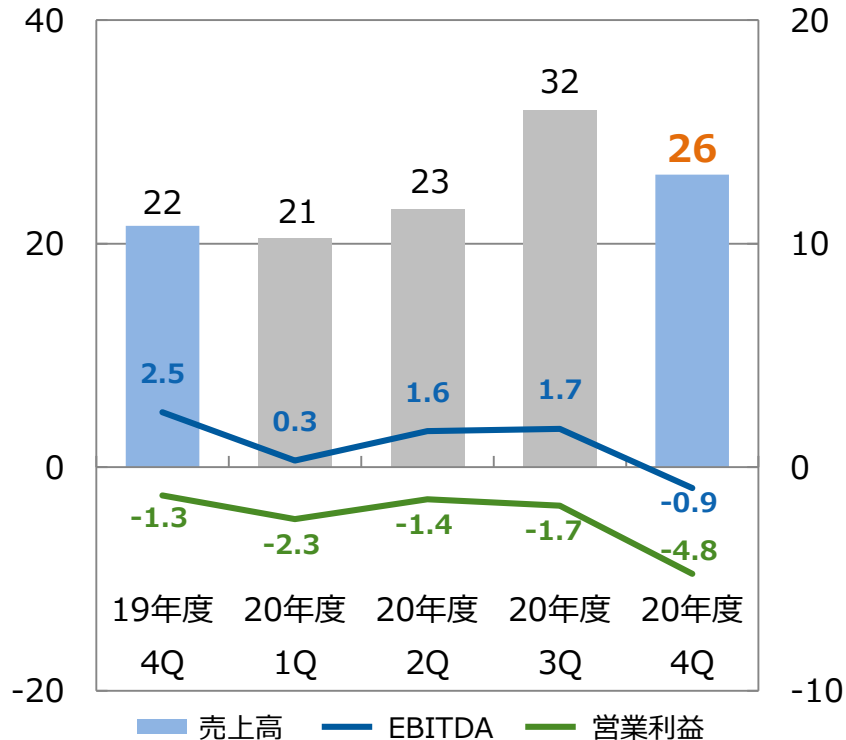
※1 今年度よりSPSサービス事業をCLT事業から承継したことに伴い過去実績は遡及して組替後実績値を掲載（2019年12月19日付リリース参照）

※2 SPS（サニタリー・パッケージ・システム）サービス：白衣等ユニフォームのリース、メンテナンス、利用者個人別の管理を医療機関に提供するサービス

ENB事業

四半期推移

売上高
(億円)



EBITDA
営業利益
(億円)

対前期比

(億円)

	19年度	20年度	対前期比 増減	
売上高	82	102	+19.2	+23.3%
EBITDA	4.7	2.7	-2.0	-42.2%
営業利益	-8.1	-10.2	-2.2	-

売上高

- セルフメディケーション・健保事業の伸長 (+10.8億円)
- 在宅・福祉用具事業の伸長 (+4.2億円)
- 日本食品エコロジー研究所の連結による寄与 (+6.2億円)

営業利益

- 事業立ち上げに伴う先行費用が継続
- 4Qに貸倒引当金を計上 (▲3.0億円)

連結業績（対前期比）

	19年度	20年度	対前期比 増減	
売上高	1,887	2,230	+343.0	+18.2%
CLT	1,169	1,361	+192.1	+16.4%
IVD	401	500	+99.4	+24.8%
SR	235	267	+32.3	+13.7%
ENB	82	102	+19.2	+23.3%
営業利益 ※1	99 5.3%	254 11.4%	+154.5	+155.5%
CLT	52 4.5%	140 10.3%	+87.8	+168.2%
IVD	61 15.2%	128 25.6%	+66.9	+109.9%
SR	18 7.7%	20 7.3%	+1.5	+8.6%
ENB	-8 -9.8%	-10 -10.1%	-2.2	-
経常利益	65 3.4%	255 11.4%	+189.9	+293.6%
親会社株主に帰属する 当期純損益	-5 -0.3%	175 7.8%	+179.8	-
EBITDA ※2	213 11.3%	379 17.0%	+166.2	+78.1%
ROE	-0.5%	16.0%	16.5pt	-
ROIC	3.7%	8.7%	5.0pt	-

（億円）

※1 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（19年度：▲23.6億円、20年度：▲23.3億円）

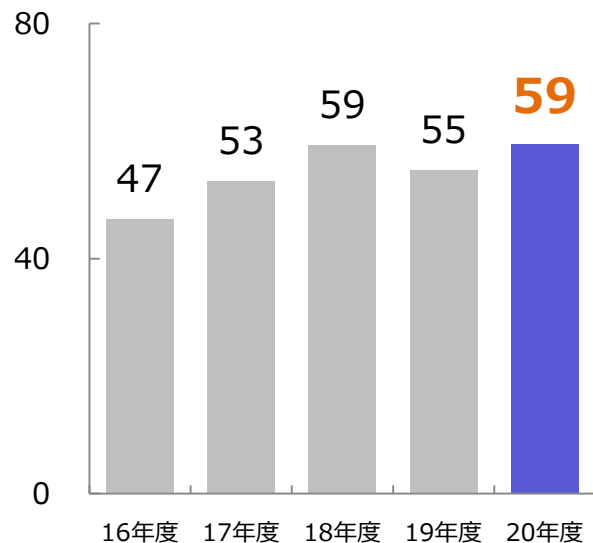
※2 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

※3 各項目の右肩数字は、各売上に対する利益率

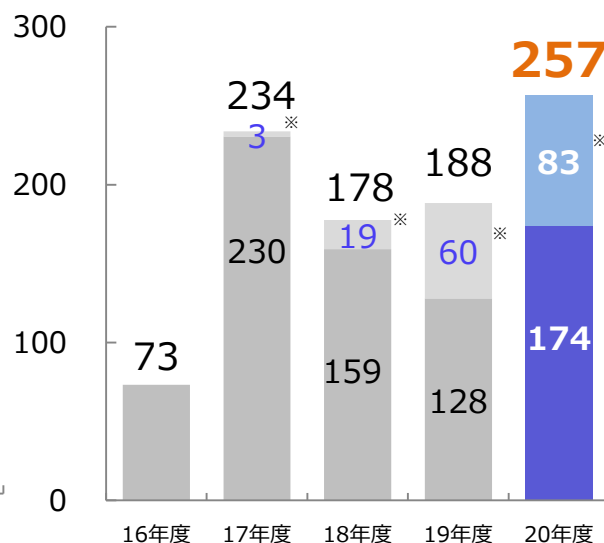
研究開発費、設備投資額、減価償却費（海外CLTを除く）

（億円）

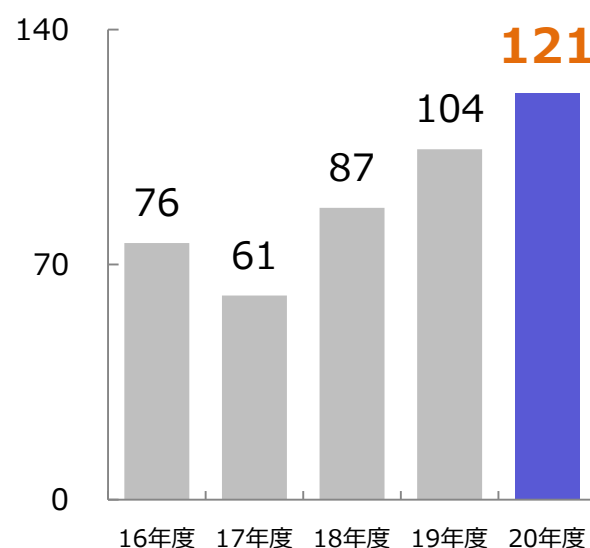
研究開発費



設備投資額



減価償却費



※ あきる野プロジェクト関連投資：累計約165億円

連結キャッシュ・フロー

- 税引前利益の増加等に伴い営業CFは前年同期比204億円増加
- 営業CFの増加に伴いフリー・キャッシュ・フローは138億円改善

(億円)

	19年度	20年度
税金等調整前当期利益	61	208
減価償却費	104	121
売上債権の増減額	9	-139
仕入債務の増減額	19	66
その他	50	47
小計	243	302
法人税等の支払額	-90	55
その他	-1	-1
営業活動によるCF	152	356
固定資産の取得（有形、無形）	-156	-212
その他	-62	-71
投資活動によるCF	-218	-283
FCF	-65	73

	19年度	20年度
長期借入金	50	100
長期借入金の返済	-79	-42
社債の発行	200	-
短期借入金の純増減	-	-55
配当金の支払	-74	-66
その他	-15	-22
財務活動によるCF	82	-16
現金同等物期末残高	362	430

中期連結数値計画に対する進捗

	中期計画		2020年度実績	進捗/達成状況
連結売上CAGR	6%以上	→	18.2%※	○
連結EBITDAマージン	18%以上	→	17.0%	△
連結営業利益率	10%以上	→	11.4%	○
ROE	12%以上	→	16.0%	○
ROIC	8%以上	→	8.7%	○
(リース債務を除く) 純有利子負債 /EBITDA倍率	2024年度末：1.3倍以下 (中計期間中2.5倍以下を維持する)	→	0.6倍	○
自己資本比率 (不動産ファイナンスを除く)	40%以上	→	45.6%	○
5年間累計営業キャッシュフロー	1,500億円以上	→	356億円	○
5年間累計フリーキャッシュフロー	500億円以上	→	73億円	○

※ 対2019年度比成長率

2021年度（2022年3月期）計画

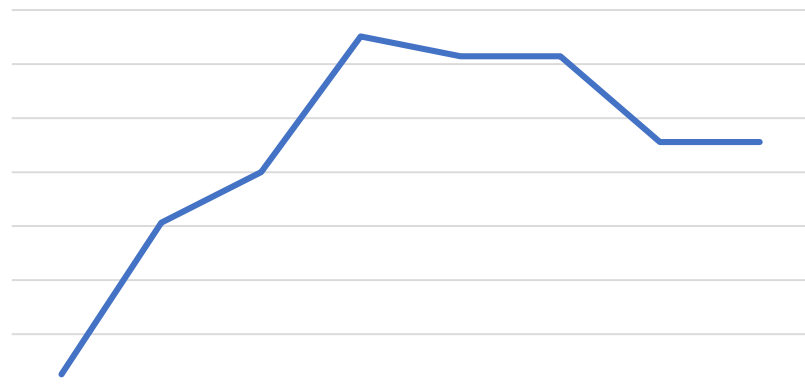
2021年度における新型コロナウイルス関連検査の考え方

CLT	PCR	• 感染状況により変動 • 一定の価格下落を想定
	空港検疫所	• 海外往来拡大への備え
IVD	ルミパルス	• 高感度抗原定量検査の需要拡大 • 内販拡大（空港検疫所）
	エスプライン	• 海外販路拡充

新型コロナウイルス関連検査は前年度比約20%程度の売上増加を見込む

新型コロナウイルス関連検査の想定イメージ

PCR検査受託数



- 検査需要は不透明であるが、上期は20年度4Qより減少、下期はさらに減少することを想定

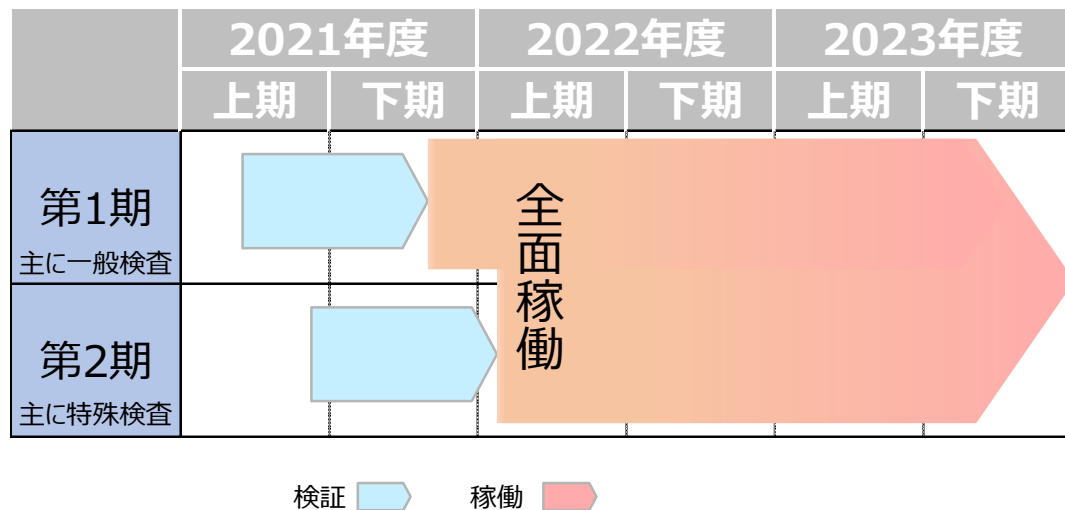
空港検疫所における 高感度抗原定量検査実施数



- 海外往来の動向は不透明であるが、下期に向けて徐々に増加することを想定

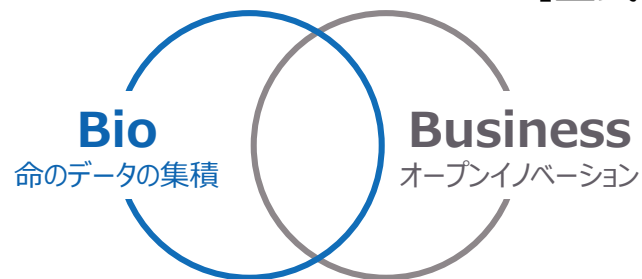
新セントラルラボ稼働開始に向けて

- 2022年1月の第1期稼働と2022年5月の全面稼働に向けた検証を開始
- 21年度下期より第1期稼働による費用増加を見込む



第1期稼働 : 2022年1月
全面稼働 : 2022年5月

「あきる野プロジェクト」の正式名称決定



【正式名称】 **H.U. Bioness Complex** (H.U. ビオネス コンプレックス)

H.U.グループの「**ヘルスケアビジネスの複合体**」という意味を表す

“**Bioness** (ビオネス)”は、
“**Bio** (命のデータの蓄積)”と
“**Business** (業界にイノベーションを起こす創造力)”を表現した造語



【愛称】 **AkirunoCube** (アキルノキューブ)

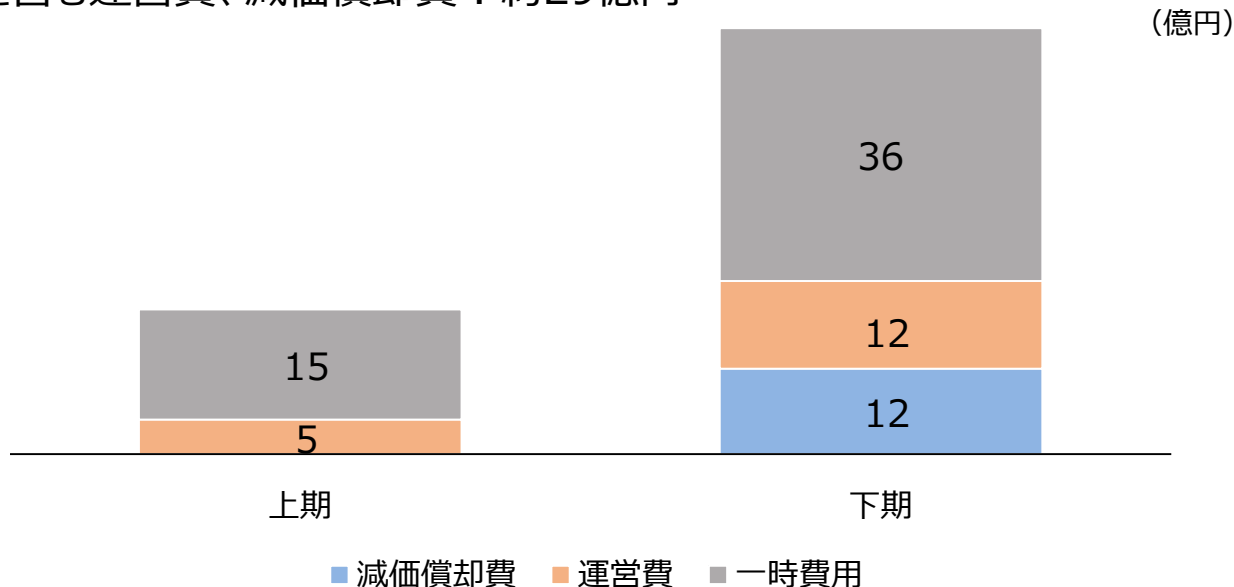
「あきる野市」を意味する“**Akiruno** (アキルノ)”と、
建物形状を表した“**Cube** (キューブ)”を組み合わせたネーミング

新セントラルラボ稼働にともなう費用

- 今期発生を見込む費用総額：約80億円
- 4Qの稼働開始に向けて上期よりテスト運用

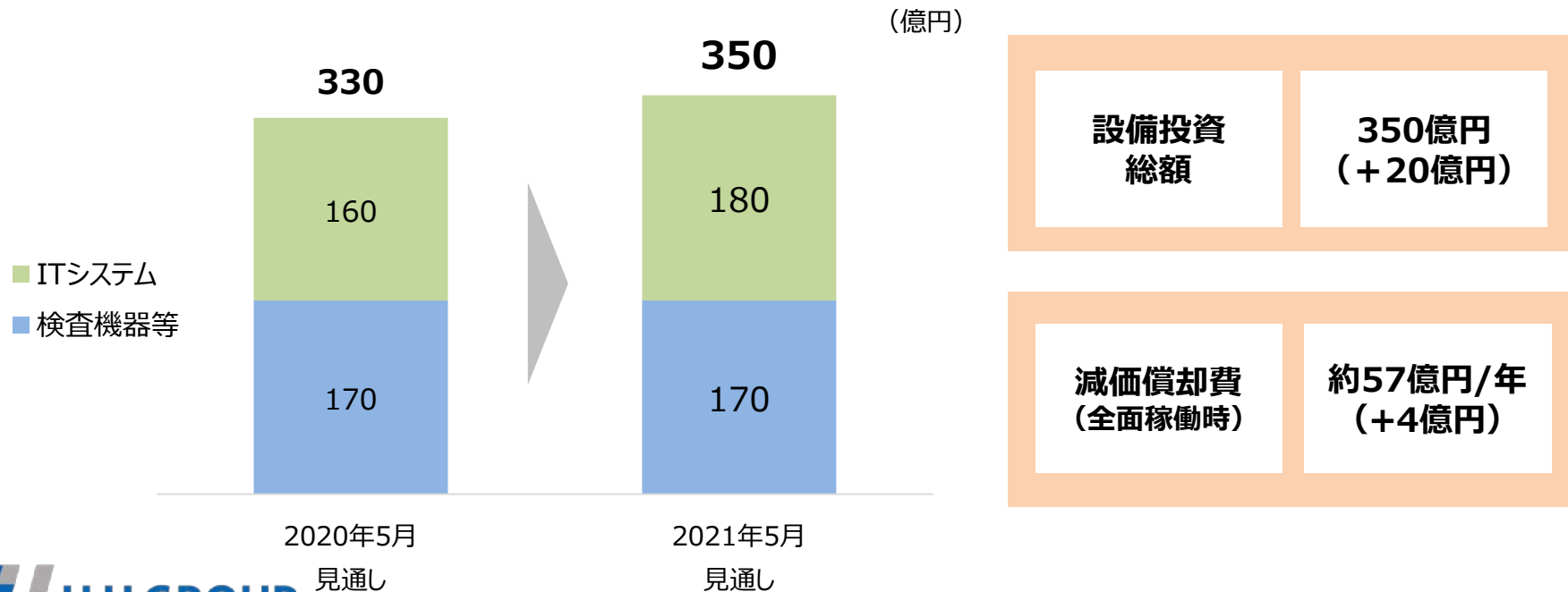
【内訳】

- 一時費用：約51億円（テスト運用、移転、ITシステム関連費用等）
- 賃料を含む運営費、減価償却費：約29億円



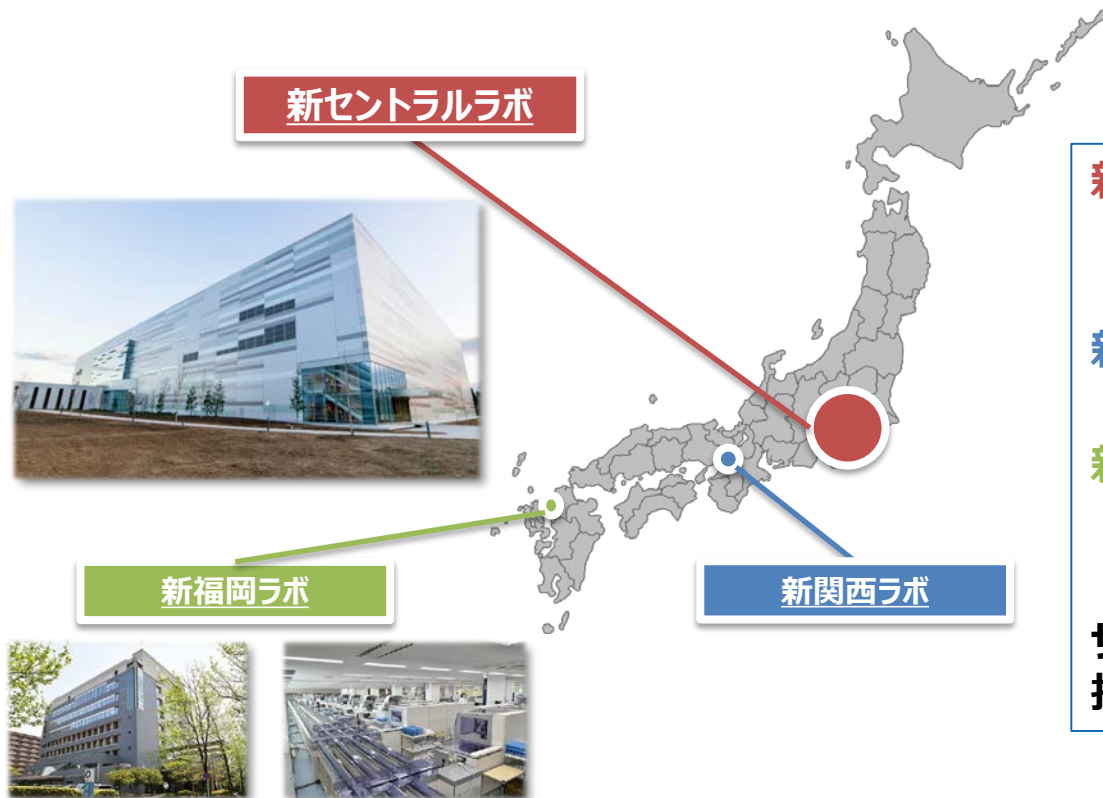
新セントラルラボの設備投資額の見通し

- ITシステム投資額が前回見通しから20億円増加
- 設備投資総額は350億円を見込む



全国ラボ再編

新セントラルラボ稼働を踏まえた全国ラボ体制の再構築を推進



新セントラルラボ

新セントラルラボ（あきる野）

- 2022年1月：第1期稼働
- 2022年5月：全面稼働

新関西ラボ

- 2023年度4Q（予定）

新福岡ラボ

- 2021年3月：全面稼働

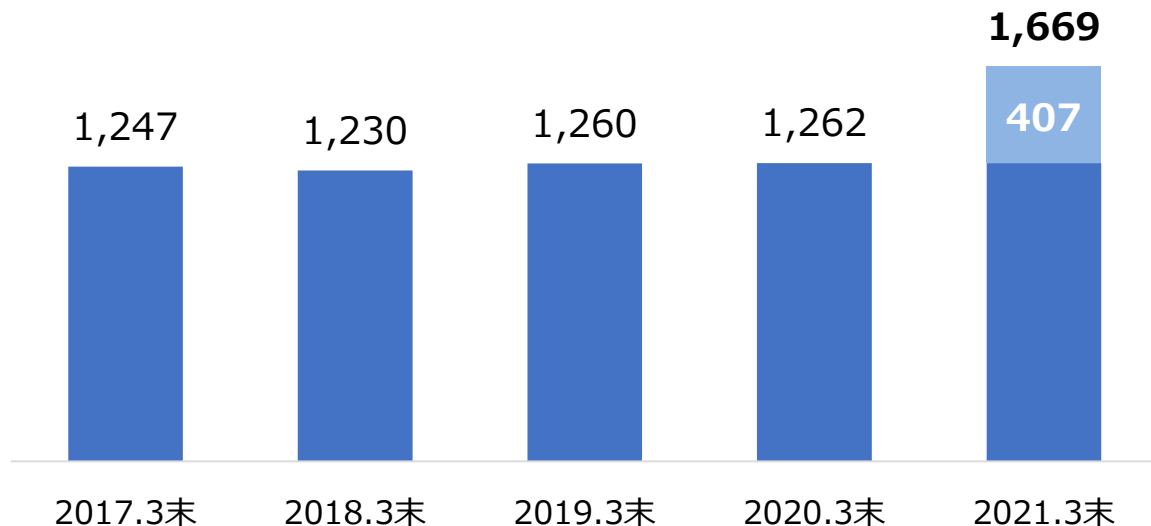
サテライト/地域ラボのSTATラボ※化を推進

※ 主に緊急検査を受託するラボ（STAT=Short Turn Around Time）

ルミパルス試薬の販売機会拡大

- 新型コロナウイルス対応でルミパルス設置台数は前年比32%増加
- 「ルミパルスSARS-CoV-2 Ag」のみならず、他項目検査試薬を拡販し、国内ルミパルス事業のベースアップを目指す

ルミパルス設置台数の推移



OEM/原材料生産体制の強化

- OEMビジネスの中長期的な需要拡大や原材料ビジネスの安定的な原料供給を見据え、主要拠点における生産体制強化への投資を加速
- グローバル市場においてユニークなポジションを確立し、新型コロナウイルス感染収束後も持続的な成長の実現へ

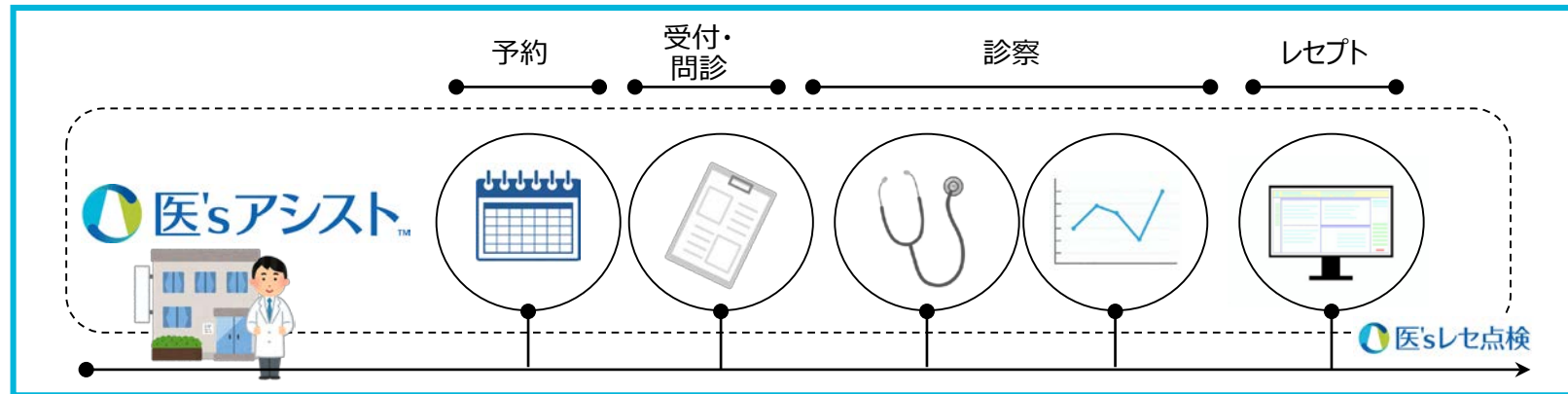
**OEM・原材料事業において
21年度に見込む主な
設備投資**

約58億円
(主に土地・建屋の移転拡張)



ヘルスケア×ICTの推進

- ・ 開業医向け業務支援SaaS「医'sアシスト」のサービス拡充、顧客基盤拡大を目指す
- ・ 顧客基盤拡大および健保組合への導入促進によるウィズウェルネスのユーザー数拡大



医'sアシスト顧客基盤拡大

- ・ 主要電子カルテメーカーとのデータ連携
- ・ 主要電子カルテメーカー、卸など外部チャネルを活用した拡販

開業医との
連携



健保組合との
連携

H.U.ウェルネス※を通じた健保組合への導入促進

- ・ 重症化予防などの機能追加

 ウィズウェルネス™

※ SRLウェルネスプロモーションとセルメスタの合併により設立する会社（2021年5月10日リリース参照）

2021年度通期業績予想

- 上期は増収増益、下期は新セントラルラボ稼働によるコスト増等を見込み減益を予想
- 新型コロナウイルスの影響が不透明なため、現段階でのセグメント別開示は控える

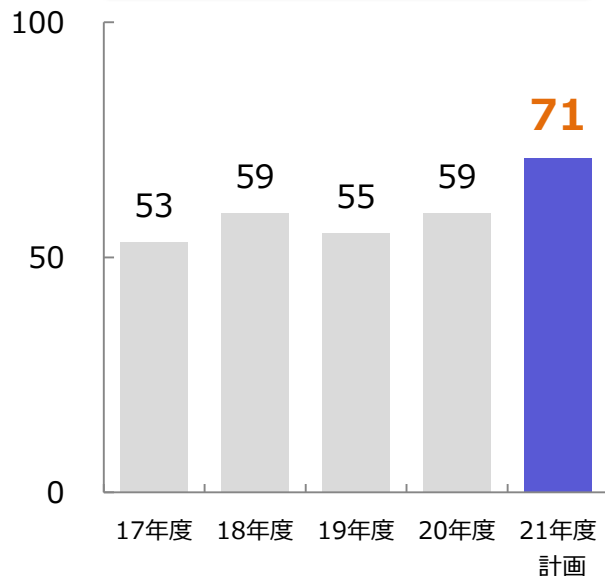
	20年度実績			21年度計画			前年度比	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減	増減率
売上高	986	1,245	2,230	1,210	1,210	2,420	+190	+8.5%
EBITDA	141	238	379	235	170	405	+26	+6.9%
EBITDAマージン	14.3%	19.1%	17.0%	19.4%	14.0%	16.7%		
営業利益	81	172	254	170	85	255	+1	+0.4%
営業利益率	8.3%	13.9%	11.4%	14.0%	7.0%	10.5%		
経常利益	73	181	255	185	70	255	+0	+0.2%
経常利益率	7.4%	14.6%	11.4%	15.3%	5.8%	10.5%		
当期純利益	51	124	175	125	40	165	-10	-5.5%
当期純利益率	5.2%	9.9%	7.8%	10.3%	3.3%	6.8%		
ROE			16.0%			13.8%	-2.2pt	
ROIC			8.7%			7.8%	-0.9pt	

2021年度計画（研究開発費、設備投資額、減価償却費）

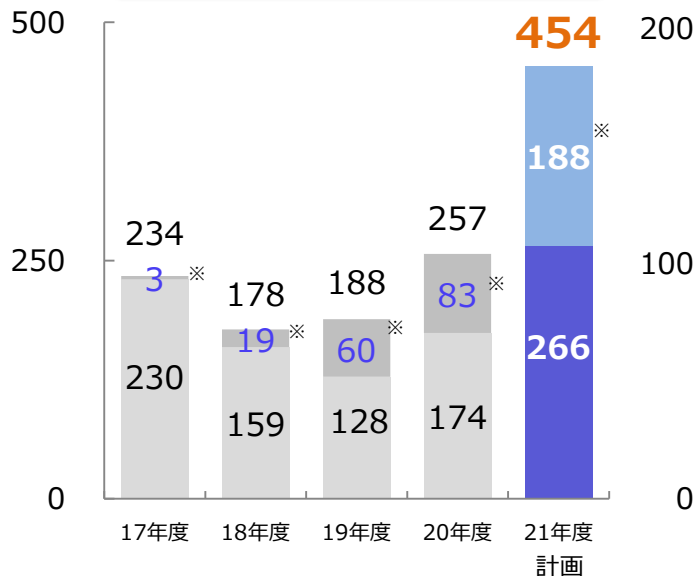
- 研究開発費は体制強化や機器開発/改良により増額
- 設備投資額はH.U. Bioness Complexによる増額に加え、IVDにおけるOEM生産体制強化等により増加を見込む

(億円)

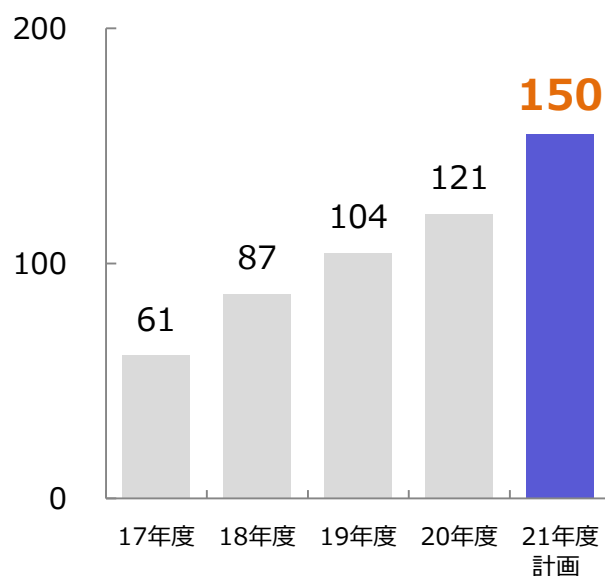
研究開発費



設備投資額



減価償却費



株主還元について

20年度

- 一株当たり配当金は年額**144円**（中間:50円 + 期末:75円 + 創業70周年記念配当:19円）
特別損益等特殊要因を除外し計算した親会社株主に帰属する当期純利益に対する配当性向50%をもとに計算

21年度

- 主たる配当のKPIとして、新たに**DOE※（連結自己資本配当率）**を採択
- キャッシュフロー、中長期的に健全な財務基盤の維持などを総合的に勘案し、DOE6%レベルを目指すこととし、安定的かつ継続的な配当を実施する
- 21年度の一株当たり配当金は年額**125円（中間:62円、期末:63円）**を予定

※ DOE (Dividend on Equity Ratio) = 配当総額(D)/自己資本(E) = 配当性向(D/R) × ROE(R/E)

配当性向：50%
(従来還元方針)

×

ROE：12%
(中計目標値)

=

DOE：6%

安定的かつ継続的な株主還元の実施へ

Appendix

研究開発費、設備投資額、減価償却費

(百万円)

		19年度	20年度	対前期比増減	
研究開発費		5,514	5,944	+430	+7.8%
	CLT	355	373	+18	+5.1%
	IVD	4,227	4,727	+501	+11.8%
	SR	-	-	-	-
	ENB	1	4	+3	+279.7%
	HUHD等	931	839	-92	-9.9%
設備投資額		18,833 ※	25,678 ※	+6,845	+36.3%
	CLT	13,333	16,631	+3,298	+24.7%
	IVD	2,286	3,959	+1,673	+73.2%
	SR	1,014	577	-437	-43.1%
	ENB	1,474	2,029	+555	+37.6%
	HUHD等	724	2,480	+1,756	+242.2%
減価償却費		10,432	12,091	+1,658	+15.9%
	CLT	5,680	6,831	+1,151	+20.3%
	IVD	2,763	2,877	+114	+4.1%
	SR	261	351	+90	+34.6%
	ENB	1,129	1,199	+70	+6.2%
	HUHD等	598	831	+233	+39.0%

※ あきる野プロジェクト関連投資を含む（19年度：約60億円、20年度：約83億円）

従業員数

		20年 3月末		21年 3月末		20年3月末からの増減	
		従業員	臨時 雇用者	従業員	臨時 雇用者	従業員	臨時 雇用者
総従業員数		5,968	6,622	5,851	6,483	-117	-139
	CLT	2,926	3,112	2,244	3,051	-682	- 61
	IVD	1,129	118	1,043	122	-86	+ 4
	SR	1,161	3,152	1,108	3,029	-53	- 123
	ENB	393	188	443	196	+50	+ 8
	HUHD、他※	359	52	1,013	85	+654	+ 33

※ HUHDの他、H.U.中央研究所、H.U.フロンティア等を含む

2020年10月にH.U.フロンティアが営業開始したこととともない、CLT・IVD・SRの一部従業員を移管

【連絡先】

H.U.グループホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部 IR/SR課 TEL : 03-5909-3337

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。